

# 第 6 章

---

## 再生に向けたしくみ



## 1 再生の基本的な進め方

中川運河の再生に向けて、次のような体制やしくみづくりを進め、再生計画の効果的かつ着実な実現をめざします。

### 1 計画の進行管理

再生計画で掲げた取り組みを実現するため、市民・企業・学校・行政等の代表者が相互に調整・連携しつつ、ハード・ソフト事業の進行管理を行うしくみを構築します。

### 2 市民・企業等の活動の促進

市民・企業・学校・行政等の多様な主体が協働しながら、様々な活動が持続・発展していくしくみを構築します。

## 2 再生に向けたしくみ

### 1 計画の進行管理

#### 計画の進行管理体制

市民・企業・学校・行政等の多様な主体が行う各事業の調整・連携と、運河再生に向けた取り組みの進行管理を担う組織として、以下のような構成員による「(仮称)中川運河再生推進会議」(以下、「再生推進会議」という。)を設置します。

表 6-1 想定される構成員

市民	学区連絡協議会または町内会、NPO・市民団体などの代表者
企業	沿岸用地利用者、経済団体、企業などの代表者
学校	学校、名古屋都市センターなどの代表者
行政	国、名古屋市、名古屋港管理組合など各機関の代表者

#### 基本的な役割

##### 各事業の調整・連携

再生推進会議では、各事業主体の事業進捗状況を報告し合い、各事業の課題整理や対応策の検討・調整等を行います。また、施設整備やイベントの開催に伴う各事業主体間の調整・連携を行います。

### 計画の進行管理

計画の進行管理は「PDCA」により実施し、「Plan（計画）」は名古屋市及び名古屋港管理組合、「Do（実行）」は各事業主体、「Check（確認）」「Action（見直し）」は再生推進会議が、それぞれ中心となって行います。

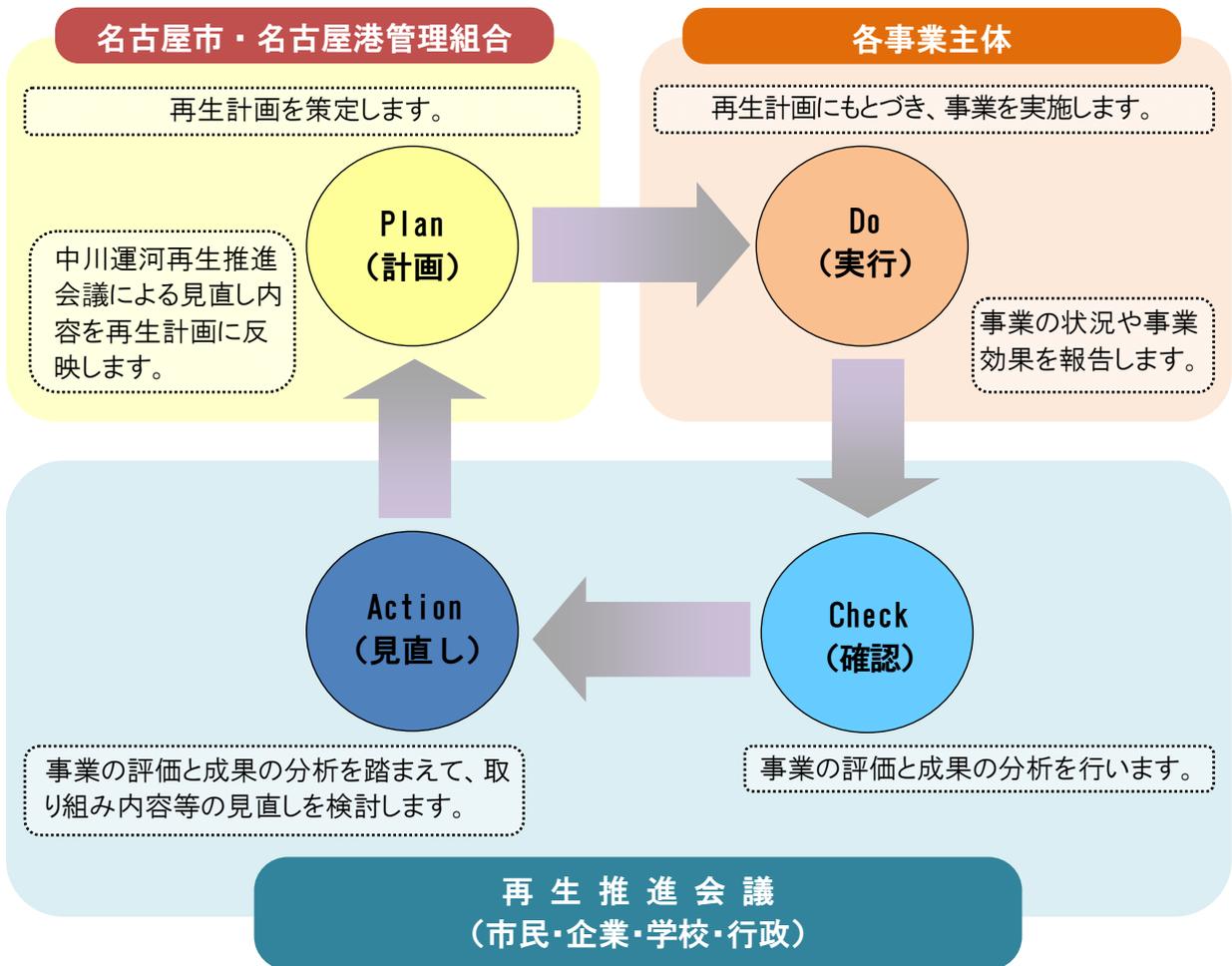


図 6-1 計画の進行管理イメージ

## 2 市民・企業等の活動の促進

### 運河をサポートする人づくり

すでに中川運河で活動している人だけでなく、新たに中川運河に興味を持ち、運河のことをもっと知り、運河再生に向けた活動に積極的に参加するなど、より多くの人びとが運河再生に関わることが重要です。

そこで、NPO等の活動や生涯学習センターの講座などに参加する市民を「運河びと」と認定し、運河再生をサポートする人の輪を広げていきます。



生涯学習センターでの講座の様子



運河びと認定証のイメージ

### 市民・企業等活動の協働体制

#### 「(仮称) 中川運河再生プラットフォーム」の設置

市民・企業等による中川運河再生に向けた活動を定着させるためには、参加者同士が直接交流し、運河に対する思いを共有することが重要になります。

そこで、中川運河の再生に関わる市民・企業・学校・行政等の多様な主体が情報発信・情報共有し、意見交換できる場として「(仮称) 中川運河再生プラットフォーム」(以下、「再生プラットフォーム」という。)を設置します。

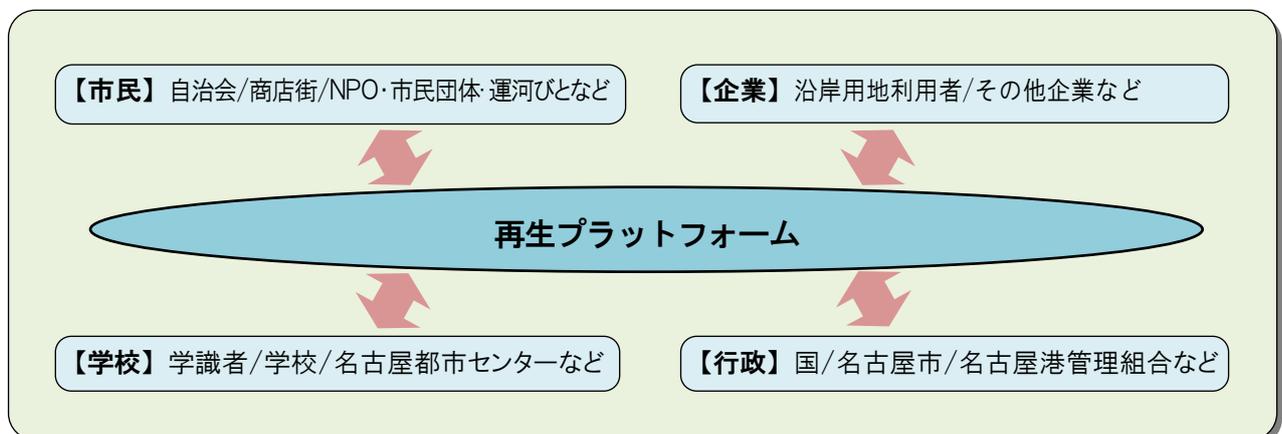


図 6-2 市民活動の協働体制

### 情報発信・情報共有

中川運河の魅力を広く伝えるためには、積極的な情報発信が必要です。対象者や情報内容に応じて、広報誌やホームページなど、様々な媒体・手段を有効に活用することが求められます。

現在でも、行政や関係する団体等が、それぞれの活動内容やイベント情報などを様々な媒体を活用して情報発信していますが、今後は、各主体がそれらの情報を共有し、各ホームページ等において、互いのイベント情報や地域で行われる活動などを同時に発信していくことが求められます。そのために、再生プラットフォームにおいて、各主体のインターネット情報を統括・連携するサイトの作成や、地域情報誌の発行などについて検討し、情報発信・共有の連携体制を構築していきます。

【紙媒体】	【インターネット】	【マスメディア】
<p>○各主体の活動や行政情報等の提供 (媒体)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 広報なごや</li><li>・ 地域の広報誌</li><li>・ パンレット・チラシ</li><li>・ フリーペーパー など</li></ul> <p>(内容)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ イベントの開催案内</li><li>・ にぎわい施設やモノづくり企業誘致のPR</li><li>・ 中川運河周辺のウォーキングマップ など</li></ul>	<p>○各主体が最新の情報を多様な手段で発信 ○各主体の情報の連携 (媒体)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ ホームページ</li><li>・ ブログ</li><li>・ SNS (mixiやFacebook等)</li><li>・ Twitter</li><li>・ ユーチューブ など</li></ul> <p>(内容)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「運河びと」の活動報告</li><li>・ 中川運河再生のアイデア募集</li><li>・ 各主体の活動内容・魅力的な地域資源の情報発信など</li></ul>	<p>○新聞・雑誌・テレビ等における積極的な情報提供・取材対応 (媒体)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 新聞</li><li>・ 雑誌</li><li>・ テレビ</li><li>・ ラジオ など</li></ul> <p>(内容)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 中川運河の特集記事・番組</li><li>・ イベントの開催案内など</li></ul>

図 6-3 情報提供媒体・手段と内容

## 中川運河の価値の向上

中川運河の価値を高めるには、地域の個性・特性を明確にして、その地域の魅力を広く情報発信しながら、中川運河の特色を活かした取り組みを進める必要があります。それによって、中川運河を訪れる人びとが増加し、様々な交流や市民活動が創造され、中川運河の特色がさらに強まり、価値が向上するという好循環をつくり出すことができます。

こうした循環をつくり出すために、再生プラットフォームにおいて、各主体が地域の個性・特性に関する認識を共通化し、それぞれの取り組みを有機的につなげていくことが求められます。



図 6-4 中川運河の価値向上の好循環

